

社協だより

— ふれあいで育てよう、ふくしの心 —

産山村社会福祉協議会

☎0967-23-9300

〒869-2703

産山村山鹿 488-3

「あなたの思いに寄りそうノート」講座を開催！



12月13日（水）、基幹集落センターにおいて「対話の文化まつり」が開催され、その中子どもヘルパー活動として、7年生12名と介護予防事業に参加している高齢者など11名が参加し、「あなたの思いに寄りそうノート（以下「ノート」という）」講座を実施しました。講座では、阿蘇地域リハビリテーション広域支援センターの林寿恵氏を講師に招き、「ノート」の活用についての説明を聞き、後半は「もしバナゲーム」を取り入れて対話型の世代間交流を行いました。ゲームでは、「そのカードを

選んだ理由」や「それを大切にするために何ができるか」などをグループ内で対話しながら進めることができました。

社会福祉協議会では、今後も「かたらん会」の中で「ノート」などを活用し、対話を重ねていきます。「かたらん会」の開催日時は村民カレンダーに掲載しています。お気軽にご参加ください。また、「ノート」の配布や「もしバナゲーム」もお貸しできますので左記までお問い合わせください。

☎ 産山村社会福祉協議会

23・9300

「感想」学 産山学園生 参 参加者

- 学 お年寄りがどんなことを大切にしているかがわかった。自分のおばあちゃんも体が不自由なので、相談にのったりお話をして元気になりたいと思った。
- 学 私は治療をしないと長生きできないのであればすぐに治療をしてほしいと思うが、家族がそれは「嫌だ」と言ったらどうすればいいのだろうと考えた。できるだけ家族の意見を尊重しようと思った。
- 参 日常生活の中で何となく時間が過ぎていくが、自分の人生を振り返ることは大切なことだと思った。家族との時間を大切にしたいと思う。
- 参 物事になんでも積極的に取り組んでいくことで幸せになれると思った。良い人生だったと思うために、地域や学園生の為に頑張りたい。

「講師からのメッセージ」

学園生は、子どもヘルパー活動の中で、今年度は「共生社会」について多くのことを学ぶ機会があった。その一つが学園サロン。12月はその締めくりでもある、「もしバナカード」を用いた『自分（本人）の意向を尊重した意思決定について』を行った。高齢者と学園生とで、自分（もしくは近い人）の未来を見据えた大事なことについて話し合っていた。価値観、人生観は異なっても、大切なものを考える姿勢はいくつでも同じだということを私たちも学ばせていただいた。

社協に寄せられた善意の寄附（11・12月分）

毎月、「福祉のためにぜひ役立てて下さい。」と、たくさんの善意をお寄せ頂いております。その主旨に沿うように、地域福祉の発展のために有効に活用させていただいております。

「香典返し」

- ・ 甲斐 啓補 様より（原大利）故 惠美子様分として
 - ・ 大塚 玉夫 様より（南田尻）故 ケサエ様分として
 - ・ 進 真弓美 様より（柄杓田）故 廣康 様分として
- 心から感謝申し上げます。ありがとうございました。